

DNAの情報が作る人の体

平成 22 年 8 月 13 日 (金) 13:00～16:30 (12:00 開場)

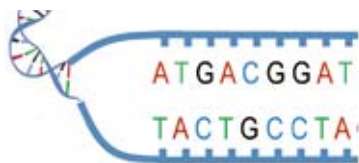
人は、親から受けついで遺伝情報に従って自分の体を作ります。体の中には、頭や胴体、手足、目や耳、鼻、口また脳、心臓、肝臓、筋肉、骨など生きるのに必要なすべてのものができあがります。ここでは、「DNA の情報が作る人の体」を共通のテーマとして 3 人の講師が話します。

13:00～13:05 開会のあいさつ 中村佳正研究科長

13:05～13:15 はじめに 小林茂夫 (京都大学教授)

1 13:15～14:15 後藤 修 (京都大学教授)

ひとりひとりの遺伝情報を解読する -30 億文字に書かれたあなたの設計図-



全ての生物は親から受け継いだ遺伝情報に従って自らを形作り、様々な生命活動を営みます。遺伝情報は DNA という分子に 4 種類の文字の並びとして記録されています。今、私たち一人一人の遺伝情報をすべて読み取ることができるようになりつつあります。この情報をどのように生かすか考えていきます。

2 14:20～15:20 前川真吾 (京都大学助教)

熱帯魚ゼブラフィッシュからひもつく体の作り方 -受精に始まるいのちの物語-

ヒトを含めた動物では、卵と精子が出会う受精から新しい命が生まれます。この命を生み出すプロセスは神秘的とも呼べる“形づくり”のプロセスでもあります。どうしてサカナはサカナに、ヒトはヒトになるのでしょうか？今回は熱帯魚を使ってわかった“形づくり”の神秘を紹介します。



3 15:25～16:25 松田哲也 (京都大学教授)

ヒトの形ができあがるまで -ヒト胎児データベースから形づくりを知る-



胎児の時期にヒトの姿は母親の胎内で劇的な変化を遂げ、最初はただ一つ細胞であった受精卵から細胞分裂を繰り返すうちに少しずつヒトの形ができあがります。ヒトの形づくりを深く理解するために、このような形の変化を分かりやすく観察できるデータベースの構築を試みています。

16:25～16:30 閉会のあいさつ 小林茂夫 (京都大学教授)

場 所	京都大学時計台百周年記念ホール (京都市左京区吉田本町)
対 象	中学・高校生以上
参 加 費	無 料

参加申し込み

参加希望の方は下記、メールアドレスに氏名、学校名等を記載したメールを送付してください (件名には公開講座と記入してください)。代表の方が一括して送付いただいても結構ですが、その場合参加希望者全員の氏名を記入してください。当日の参加も歓迎致しますが、準備のため、事前の申し込みをお願い致します。メールアドレス koukaikouza2010@i.kyoto-u.ac.jp

お問い合わせ: 和村 充二 電話: 075-753-5500 (85370) Eメール: miwamura@adm.t.kyoto-u.ac.jp